



第3回JEMAI環境ラベルコミュニティ JEMAI環境ラベル統合化に関して

2016.4.12



Japan Environmental Management
Association for Industry

一般社団法人産業環境管理協会

Copyright(C)2015 JEMAI All Rights Reserved



ラベル統合の概念図

0. 統合のこれまでの動き
1. 統合のゴール
2. 統合のゴールまでのステップ
3. 統合<ステップ1>について
4. 統合のスケジュール



0. 統合のこれまでの動き

- 0. - 1 産業環境管理協会が提供する
現状の環境ラベル
- 0. - 2ラベル統合に向けたこれまでの経緯

0. - 1 産業環境管理協会が提供する現状の環境ラベル

ーJEMAI環境ラベルプログラムー
 エコリーフ／カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム

		カーボンフットプリント	エコリーフ	
目的		事業者とお客様の間でエネルギー・化学物質使用量や廃棄物発生量等の削減行動に関する「気づき」を共有する。		
対象とする環境領域		温室効果ガス(CO ₂) 排出量のみ(単一)	多様な環境領域(複数) エネルギー消費・資源消費・その他環境負荷	
特徴	PCR*	○	○	
	原単位	複数 (基本と利用可能データ)	1種類 (共通原単位のみ)	
	検証	個別	書面検証	対面検証
		システム	外部機関に申請	事務局に申請
登録費用	企業単位(売上高リンク)	製品単位・製品分類単位		
国際規格		ISO/TS14067	ISO14025	

* Product category rule: 製品カテゴリールール

0. - 2ラベル統合に向けたこれまでの経緯

■ 中期行動計画(2013年8月)

エコリーフ・カーボンフットプリント両プログラムの整合を確保した一体運営をめざす。

- ・既存の両プログラム(エコリーフ及びCFP)の参加企業の意向を踏まえるとともに、国際規格等への適合性を確保したうえで、基本文書等の一本化、運営体制の効率化等による両プログラムの一体運営を図る。また、順次、2次データの共通化やシステム認証等検証方法の共通化など必要な措置を講じていく必要がある。さらに、将来的には、国際的な環境情報開示制度の動向をにらみつつ、統合化についても継続して議論していく必要がある。

■ 基本文書の一体化(2013年8月)

エコリーフとカーボンフットプリントコミュニケーションプログラムの一体運営化の見直しに基づき、エコリーフ環境ラベル実施ガイドラインとカーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本文書の一体化を行い発行。

■ エコリーフラベルのGHG情報をCFPラベルとして公開(2014年1月)

1. 統合のゴール

「単一環境領域」か「複数環境領域」かを問わない 製品環境情報開示のための共通プラットフォーム構築

現在検討が進められているISO規格を含む今後想定されるISO規格等への対応として、シングルクライテリアかマルチクライテリアかを問わず様々な環境負荷情報の開示を求められると考えられる。

一方、LCAに基づくラベル情報公開の為にデータ収集から登録公開に関するルール及び手順は、公開される環境負荷情報の種類によらず共通性が高いと考えられる。

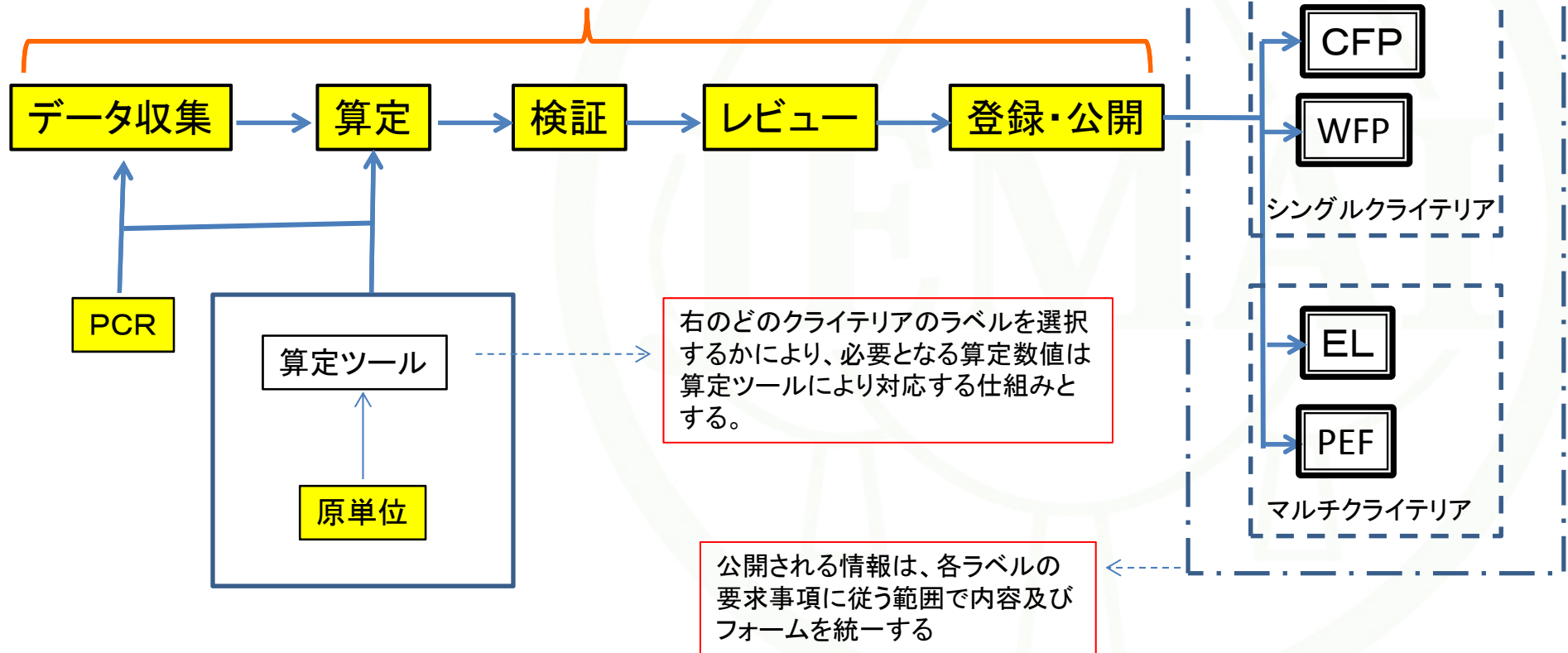
従って、以下を「統合のゴール」とする。

- 可能な範囲で共通の基準／手順に基づく共通の環境情報開示プラットフォームを構築することでラベル毎に異なる複数の仕組みを統一する。
- 上記により、同一活動量、統一原単位、同一算定ルールを使うことで同じ環境負荷項目については、異なる製品環境ラベル間でも同じデータ品質レベルの同じ数値となるようにする。
- 以上の内容について、エコリーフとCFPに限定せず今後のISO規格等の要求事項も含め対応可能なものにする。

1. 統合のゴール (イメージ図)

JEMAI環境ラベルプログラム

データ収集から登録・公開までの範囲のプロセスを**単一環境領域**(シングルクライテリア)か**複数環境領域**(マルチクライテリア)かを問わず一体化し、共通プラットフォームとする。
(黄色の枠部分)



2. 統合のゴールまでのステップ

<ステップ1> …2017年4月をスタート目標にした統合

CFPとエコリーフの2つのラベルのルールと運用の一体化

- ・原単位とPCRの共通化
- ・データ収集からラベル登録公開までのプロセスを両プログラム間での統一
- ・開示情報の内容／フォームの可能な範囲での簡略化と共通化

以上の結果として

- ・プログラム運営の効率化を図る
- ・料金体系の共通化を図り見直しを行う
- ・両プログラムに共通の環境負荷「GHG」の値を両プログラム間で一致させる
(CFPとエコリーフのシステム認証の一本化は次のステップとする)



<ステップ2> …ステップ1に対し1年程度の準備期間をおいてスタート

CFPとエコリーフのシステム認証を一本化

- ・システム認証ルールの統合
- ・ルールの統合に合わせてエコリーフシステム認証審査の外部認証機関への委託



<ステップ3> …ISO等関連規格の動向を見て詳細を決定する

欧州環境フットプリント等への対応を視野に入れたマルチクライテリア対応が可能なラベルプログラムへの拡張

そのためのプログラム構造はステップ1で構築するものを、基本的に踏襲し、クライテリアの拡大は、原単位及び算定ツールによる対応とする。

3. 統合 <ステップ1> について

- 3. -1 目的
- 3. -2 プログラムの主な変更点
- 3. -3 事業者にとっての主な変更点

3-1 目的

- **エコリーフとCFPの運用ルール／基準の共通化**

エコリーフの運用ルールをCFPの運用ルールをベースとしたものに合わせる方向で共通化する

(CFPの運用ルールをベースとしたものにする理由は、運用ルールとしてはエコリーフよりも後発のCFPのほうがルールの簡略化と文書整備が進んでおり、運用にあたり事業者の負荷がより少ないと判断したことによる。)

- **統合（共通化）による運用の効率化**

主にプログラム事務局作業の効率化

- **料金体系の適正化**

エコリーフとCFPで異なるルールとなっている料金体系の統一と全ての料金ルールの見直し

これらは、**<ステップ3>**でのISO規格等の将来対応の準備段階と位置づけている。

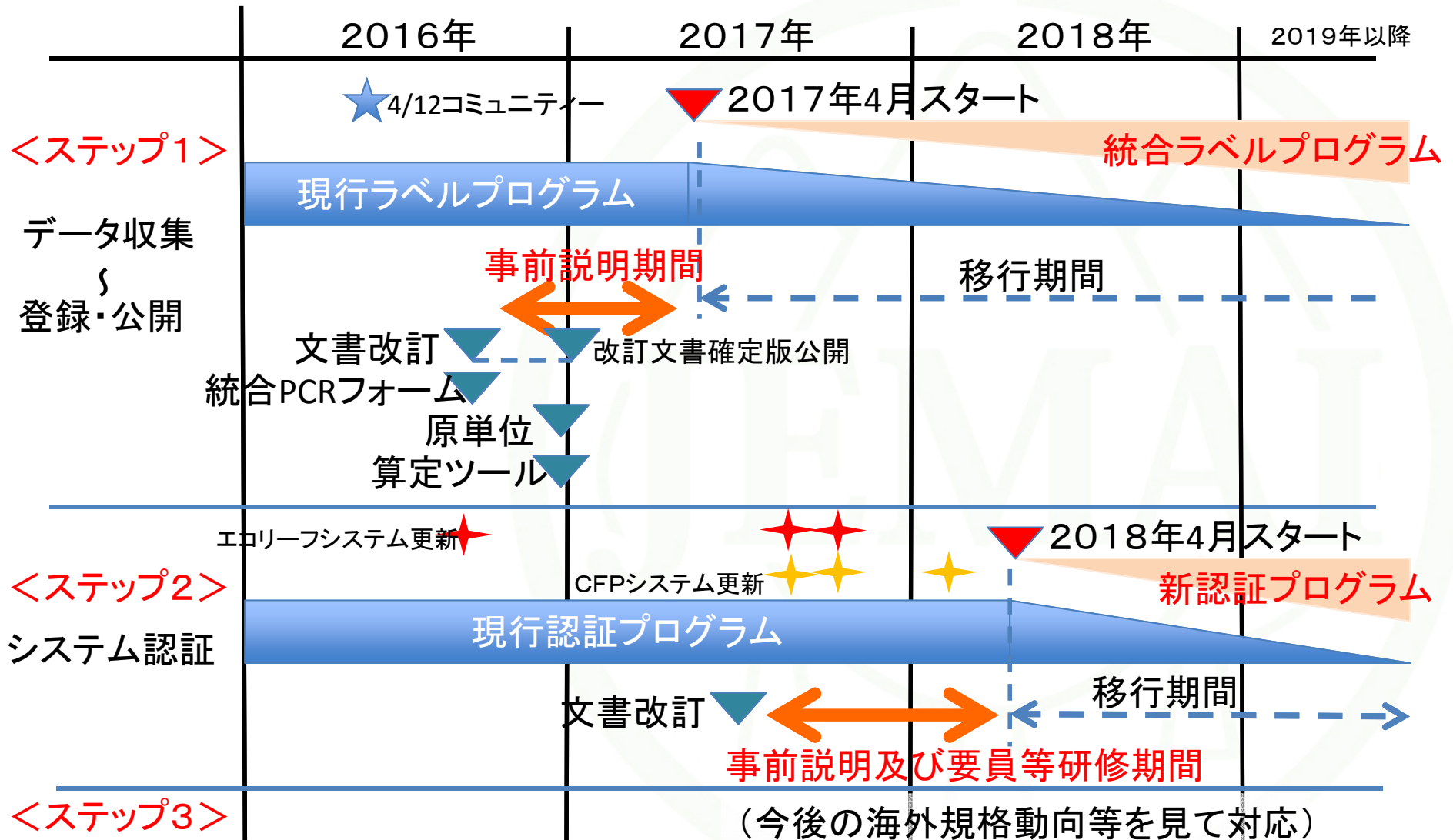
3-2 プログラムの主な変更点

- **運用ルール統一に伴う文書統一**
文書体系を、CFPをベースとしたもの（規程、要求事項、基準、手順）に一本化する。
- **登録公開情報の簡略化と共通化**
主にエコリーフを中心に公開情報の簡略化を検討し、その結果をもってCFPとの共通化を図る。
- **原単位の置換え（IDEA ver.2）と統一**
現在両プログラム（エコリーフ、CFP）で、それぞれ使われている異なる原単位を、「IDEA ver.2」を基本データとして統一し置き換える。
- **PCR統一**
現在両プログラム（エコリーフ、CFP）で別々に制定されているPCRを、CFPのPCRをベースとしたものに統一し一本化する。

3-3 事業者にとっての主な変更点

変更点 (大項目)	変更点 (小項目)	事業者対応	事業者 メリット	事業者 デメリット
運用ルールの一	運用ルール共通化	データ収集から登録公開までのルール共通化	社内プロセスの一本化(両ラベルを公開する事業者)	—
	料金体系見直し	検証料、登録公開料変更対応	ルールのわかり易さ	料金値上げの可能性
	運用ルールに伴う文書統一	改訂された文書の確認・対応	ルールの明確化	文書体系の大幅変更(EL)
登録公開情報簡略化と共通化	登録公開情報の簡略化	公開情報内容変更対応	ラベル作成負荷の低減	統合前後で公開内容が異なる
原単位の置き換えと統一	原単位共通化	原単位 変更対応	種類を増による精度向上	適切な原単位 選択の手間増
PCR統一		PCRを一本化 対応	「GHG」値の一致	PCR改訂作業 負荷
その他	算定ツール	新たな算定ツールの利用	検証書類作成負荷軽減	従来の算定ソフト使用不可
	算定数値	数値変化への対応	データ品質レベルが揃う	従来ラベルとの比較困難

4. 統合のスケジュール



事業者からのご質問等の受付

本資料に関するご質問等は下記までお寄せください。

メール宛先；

ecodesign@jemai.or.jp

メール件名；「ラベル統合に関する質問」

受付期限；2016年5月6日（金）